

公立大学法人横浜市立大学の令和2年度業務実績評価及び

第3期中期目標の期間のみなし評価の結果を公表します

横浜市公立大学法人評価委員会では、地方独立行政法人法に基づき、公立大学法人横浜市立大学の毎年度の業務実績及び中期目標期間に対する評価を行っており、その評価結果は、市長への報告と公表が法令で定められています。

このたび、「令和2年度 公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果」及び「公立大学法人横浜市立大学の第3期中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における評価結果」（以下「みなし評価」という）を取りまとめましたので公表します。

1 令和2年度評価結果の概要について

法人から提出のあった業務実績報告書等に基づき、評価委員会が書面審査及びヒアリングを実施し、項目ごとに次の基準で総合的に評価を行いました。

- S：年度計画を上回って達成している、または達成の難易度が高い計画を順調に達成している
- A：年度計画を順調に達成している
- B：年度計画を十分には達成できていない
- C：年度計画をほとんど達成していない

項 目	内 容 (○：特に評価できる点 ●：留意点)
全体的な評価	教育、研究、附属病院運営等大学活動の多くの部分にわたり、さまざまな工夫・努力が重ねられ、 <u>全体としてほぼ順調に業務が実施された</u> と認められる。
教育面の評価	<p>【評価：S】</p> <p>○オンライン授業や対面でのハイブリッド授業等による切れ目のない学修環境を整備した。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症まん延の影響による経済的な理由で学生が学修を断念することがないように、特別災害支援制度を創設した。</p> <p>●少子高齢化社会の進展、大学間競争が活発化する中、意欲ある優秀な学生獲得に向け、さらに入試改革を推進することを期待する。</p>
研究面の評価	<p>【評価：S】</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策に関連する研究成果には著しいものがあつた。</p> <p>○主要学術誌等掲載論文数や科学研究費補助金採択件数、共同・受託研究数等の実績は着実に伸びており、研究活動が活発に行われている。</p>
地域貢献の評価	<p>【評価：A】</p> <p>○臨床法医学センターでは、横浜市と連携し虐待を受けた児童の生体鑑定に取り組み、県内最大規模の対応実績となった。</p> <p>○新たに地域貢献センターへコーディネーター1名を配置し、教員紹介冊子を作成し市の各区局へ周知した結果、政策課題アドバイザー型の教員地域貢献活動支援事業として応募案件があり、取組に対し一定の効果をあげている。</p>
国際化の評価	<p>【評価：A】</p> <p>○渡航による国際交流が停止する中においても、オンラインを活用したプログラムの開</p>

	<p>講や国際ワークショップを開催するなど、新たな交流機会の創出に取り組んだ。</p> <p>○交換留学協定校は、欧米圏を中心に9大学で締結したほか、海外協定校は、電子媒体を用い新規に締結を取り交わした大学もあるなど、着実に取組を進めた。</p>
附属2病院の評価	<p>【評価：A】</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対応では、通常の診療体制を継続しながら感染症患者を受け入れ、地域の医療提供体制の維持に努めるとともに災害拠点病院としての役割を果たした。</p> <p>○補助金等外部資金の確保、人件費比率では昨年を引き続き50%を下回るなど、適切な病院運営がされている。今後も医療の質の向上と経営の効率化を期待する。</p>
法人経営の評価	<p>【評価：A】</p> <p>○全てのセグメントで黒字を達成したことは、これまで進めてきた自己収入の確保、業務改善、病院収支改善の取組の成果であり、高く評価できる。</p> <p>●横浜市立大学附属2病院・医学部等再整備については、今後基本計画を策定していくことになるが、大学病院の特長を十分活かした再整備となるよう、横浜市と法人が一層連携し対応されたい。</p> <p>●メール誤送信事案を受け、コンプライアンス研修・自主点検の実施や再発防止のポイントを法人内で共有するなど、ひとりひとりのコンプライアンス意識を高めるための再発防止策に取り組んでいる。今後もコンプライアンス意識の一層の強化・向上に法人全体で取り組むことを期待する。</p>

※詳細な評価結果については、次のURLから本市ホームページの「令和2年度 公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果」を参照してください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/daigaku/daigaku-hyoka/houjinhyouka.html>

また、市大から提出された実績報告は、次のURLから、市大ホームページの「令和2年度実績報告書」を参照してください。

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/univ/corp/plan/index.html>

2 第3期中期目標期間(平成29～令和4年度)のみなし評価結果の概要について

みなし評価は、地方独立行政法人法に基づき、評価委員会が、第3期における令和2年度までの法人による自己点検及び自己評価をもとに、第3期の目標達成に向けた進捗状況や解決すべき課題への対応、さらには環境変化に伴う想定外の状況への対応等について客観的な立場で評価を行うとともに、令和5年度から始まる第4期中期目標の策定に向けて、準備の一環と位置付けて行いました。

項目	内容
全体的な評価	<p>大学の教育研究等の質向上への取組、附属2病院に関する目標達成への取組、法人経営に関する取組の各分野において着実な成果が見られた。環境の変化に伴う想定外の状況に対する積極的な対応も評価する。</p>
教育面の評価	<p>【目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンス学部創設や国際総合科学部の再編等による教育研究体制の活性化、領域横断型の教育研究の推進など、更なる発展の礎を築いている。 ・海外インターンシップについては、大学独自で開拓した受入先は14か所に拡大さ

	<p>せており、学生のキャリア支援のための充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や就職活動のオンライン導入への対応、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進など、今後とも多様化する社会ニーズを的確にとらえ、教育研究の質の向上を目指して取り組むことを期待したい。
研究面の評価	<p>【目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症関連の研究については社会実装に至る成果を発表するなど社会的にインパクトを与えるほどの著しい成果があった。 ・国際学術論文数、科学研究費補助金採択件数、共同受託研究等においては数値目標を上回るなど、研究推進における成果が表れている。
地域貢献の評価	<p>【目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する学修や「地域志向科目」を全学生の必修とするなど、地域課題や地域のことを学び、解決できる人材育成の取組を進めた。 ・横浜市が推進する「イノベーション都市・横浜」の政策とも連携できるよう「産学連携イノベーション拠点 NANA Lv.（ナナレベル）」内にみなとみらいサテライトキャンパスを開設し、企業連携の足掛かりとなる拠点を構築した。今後より一層の展開に期待したい。
国際化の評価	<p>【目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生受け入れのための制度拡充や、留学生就職促進プログラムへの採択により支援体制を整備した。 ・留学生の派遣、受入について、今後はオンラインの国際交流プログラムの推進など、学生が多様な国際交流の機会をさらに得られるようにするなど、国際都市横浜に立地する大学として更なる飛躍を期待したい。
附属2病院の評価	<p>【目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属病院では「がんゲノム医療連携病院」や「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」の指定を受け、センター病院では「横浜市乳がん連携病院」の指定を受けたほか、手術支援ロボット（ダ・ヴィンチ）の導入など、医療機能の充実を図る取組が着実に進んでいる。 ・遠隔医療体制（Tele-ICU）や「NANA Lv.」への読影端末の設置など、新たな技術を活用した医療提供体制の構築にも努めている。 ・災害時医療への対応、新型コロナウイルス感染症への対応等において、医療スタッフの高いモチベーションと使命感が十分に発揮されている。 ・医師、看護師、薬剤師等の医療職のみならず、事務職員などにも豊かなキャリアパスを描くことができるような人材育成の取組がなされている。
法人経営の評価	<p>【目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各セグメントで経営改善プロジェクトを実施し、研究費の増加や診療報酬の加算獲得、寄付活動の強化といった取組を行い、収入の増加に努め、管理経費の削減を図るなど、効率的な運営に努めており、黒字基調を実現している。 ・感染症や自然災害、事故などの危機管理対策や意識向上に努め、メール誤送信の事案を踏まえた個人情報保護やコンプライアンス意識の徹底等、信頼向上につながる不断の努力を期待する。

※詳細な評価結果については、次の URL から、本市ホームページの「公立大学法人横浜市立大学の第 3 期中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における評価結果」を参照してください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/daigaku/daigaku-hyoka/houjinhyouka.html>

また、市大から提出された実績報告は、次の URL から、市大ホームページの「第3期中間点における業務実績報告書」を参照してください。

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/univ/corp/plan/index.html>

【参考】横浜市公立大学法人評価委員会

1 設置の目的

法人の業務の実績に関する評価等を行うため、平成 16 年 12 月に評価委員会を設置

2 委員構成

	氏 名	役 職 等
委員長	くどう ともりのり 工藤 智規	公益財団法人スポーツ安全協会会長・元文部科学審議官
委 員	あるが とおる 有賀 徹	独立行政法人 労働者健康安全機構 理事長
	いまいち りょうこ 今市 涼子	学校法人 日本女子大学理事長
	おおくぼ ちゆき 大久保 千行	横浜商工会議所 副会頭
	かわい ちひろ 河合 千尋	日本公認会計士協会神奈川県会 公認会計士

3 令和 3 年度開催実績

第 85 回(5 月 21 日)、第 86 回(7 月 16 日)、第 87 回(8 月 17 日)

お問合せ先
横浜市公立大学法人評価委員会事務局 (横浜市政策局大学調整課) 横浜市政策局大学調整課長 大塚 和彦 Tel 045-671-4271